

1 学校・市町村概要

●校是 向学・立志・自主

●教育目標：【小清水小学校教育目標】 1 ころやさしく 2 しっかりまなび
3 みずから体をきたえる子【小清水中学校教育目標】 1 よく考え意欲的に学ぶ生徒 2 明るく、思いやりのある生徒
3 粘り強く取り組む生徒 4 たくましい身体をつくる生徒●所在地 小学校 〒099-3642 斜里郡小清水町南町1丁目22番5号
中学校 〒099-3641 斜里郡小清水町元町2丁目19番7号

2 導入経緯

平成23年度 「北海道学力向上トリプルUP！事業 連携UP！小・中ジョイントプロジェクト」
 町内の小学校6校が再編し小清水小学校となる。「土曜授業推進事業実践校」指定
 平成24年度 「ほっかいどう学力向上推進事業小中連携、一貫教育実践事業」
 平成26年度 「道外の小中一貫教育先進校視察→基本工程策定」
 平成26年度 小学校6年生の中学校校舎登校体験学習を実施(土曜授業)
 平成27年度 日課表改訂、スクールカレンダーの更新(小・中学校を併記)、学校経営計画書式統一
 平成28年度 小学校6年生中学校校舎登校開始、小中交流授業開始、専科授業・乗り入れ授業開始
 平成29年度 小学校・中学校合同研究会開催、
 小中一貫教育(小中一貫併設型)実施

3 小中一貫教育の取組概要

【ねらい】

- ・9年間を貫いた目指す子ども像の共有(義務教育の目標の実現)
小学校と中学校とが協力して、教科学習、生徒指導、学校行事等について、9年間での達成目標を立てて取り組む。
- ・9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成
義務教育9年間を通して、すべての子の可能性を最大限に伸ばす教育を行う。

【形態・施設】

- ・施設分離型 校舎間は、距離1.8km、高低差30mに位置する。
- ・中学校に6年生の靴置き場・教室・教具・辞書・児童用図書を設置している。
- ・中学校舎登校日は、市街地児童もスクールバスを利用して中学校登下校を許可している。

【教職員体制】

- ・中学校には小学校兼務教員を町費で配置
- ・校長は各校に配置、小中一貫コーディネーター、小中合同研修部

【教育課程の特例】

- ・小学校1年生からの外国語活動
- ・小学校3・4年外国語活動、5・6年生外国語(3・4年35時間、5・6年70時間)
- ・区切り変更無し(6-3制)

【教科担任・教員の相互乗り入れ】

- ・外国語活動、外国語の教科担任制(中学校兼務教員の専科授業)

【児童生徒の異学年交流】

- ・児童会生徒会活動(H29は小清水高校閉校に際しての合同メッセージを制作し閉校式等に展示)
- ・小学校金管バンド、中学校吹奏楽部の合同演奏会
- ・入学前に部活動体験(1週間)の実施、中学校行事見学の実施

【市町村教育委員会、地域、保護者による支援】

- ・小中一貫の基本方針を策定
- ・いじめ・問題行動等防止対策会議を開催し、町内の小中、幼保、警察署等で情報を共有。
- ・特別支援連携協議会を開催し、特別支援在籍児童、通常学級で配慮の必要な児童生徒の情報を共有。
- ・小中一貫教育推進会議を開催し、取り組みの進捗状況の報告、地域保護者の意見聴取、結果検証の報告。
- ・小中合同緊急連絡システム導入支援
- ・PTA合同行事の開催

4 取り組みの工夫

【一貫教育の基本方針】

本町が小中一貫校としてめざすのは、「目指す子ども像の共有」と「9年間の系統性のある教育課程編成」である。その実現のための方針として次の4点を示している

- ①教育目標を共通なものとする【教育目標の一貫性】
 - ②学習内容の系統を接続させる【学習内容の系統性】
 - ③指導方法を継続させる【学習・生徒指導の継続性】
 - ④児童・生徒理解を一貫させる【子ども理解の一貫性】
- 特に、③④は教科指導の場面に限定せず、「生徒指導についての情報交流と共通理解」、「特別支援教育についての情報交流と共通理解」を含めている。

①と②については、小中合同研修日を年間7回設定し、授業実践や協議を通して学習内容の系統性と指導方法の継続性を生かした指導力の向上と授業改善を図ることとする。

【分離型における小中合同研修の実践】

小中一貫校として、小学校と中学校の教員は、互いにコミュニケーションをとることが求められる。しかし、分離型一貫校において、両校職員が日常的に交流することは容易ではない。このような課題に対する有効な解決手段として、本校は「小中合同研修」の充実を選択した。子ども達の学びや育ちを支える授業作りや指導方法を通して教員が繋がり、一人一人が授業改善を進めることで児童生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、9年間の系統性のある教育課程編成に繋がると考える。

【課題解決型の研修プロセスの推進】

学校組織研修は研究主題を設定し、仮説検証型研究スタイルをとるのが一般的である。しかし、小中一貫校は研究対象となる教科等は限られ、9年間の主題・仮説の設定も限られてくる。

そこで、本校は課題解決型の研究スタイル導入し、右図のような研修マネジメントサイクルを年間で実施している。

具体的にはまず、小学校と中学校の教員が各教科部会に分かれ、授業の様子や客観的なデータから【現状把握・課題の明確化】を行い、なぜその様な状態なのかを【診断・要因分析】を行う。

次に、【授業レベルのテーマ設定】ということ、要因をなくしたり、改善するための授業場面(具体的に限定的)の手立てを自ら実践したり、全校に発信して実践を呼びかけたりしながら全校で授業改善を行う。

ある程度実践を重ねた段階で、【効果検証と分析】を行い、【発表・検討】することで、次の段階にむけての【現状把握・課題の明確化】を行うサイクルを繰り返す。

本校は、これら具体的に限定的な指導場面で系統的な指導をいくつも束ねていくことで小清水の児童生徒の実態に合わせた9年間の教育課程を編成していけると考えている。

【カリキュラムマネジメントの充実にむけて】

教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題を明確にするため、各種調査結果や学力検査・通知票等のデータに基づいた現状把握を行う。また、児童生徒の個人データを集約したファイルを作成し、個に応じた指導も可能にしている。これらを小学校・中学校の教員間で共有し授業改善を図り、カリキュラムマネジメントの充実に努める。

課題解決型の研究スタイル



小中合同研修会をうけての具体的な取り組み

取組	課題のある分野の学習内容や系統性	学習における児童生徒の実態	目的	小学校で継続・徹底する具体的な手立て(合同研修と中学校の授業を基にまとめました)	担当
教科指導	□小学校の授業内容が不明 □指導方法が不明 □中学校の授業内容が不明 □指導方法が不明	□授業準備のためのキーワードやポイントが不明 □授業の進め方や特徴が不明 □授業の進め方や特徴が不明	1 授業準備の明確化 2 授業準備の明確化	① 授業準備(指導)の目的を明確にすることで授業準備を徹底する。 ② 授業準備の明確化を図ることで授業準備の共通性を高める。 ③ 授業準備の明確化を図ることで授業準備の共通性を高める。 ④ 授業準備の明確化を図ることで授業準備の共通性を高める。	担任 担任 担任 担任
教材研究	□教材研究が不明 □教材研究が不明	□教材研究が不明 □教材研究が不明	1 教材研究の明確化 2 教材研究の明確化	① 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ② 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ③ 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ④ 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。	担任 担任 担任 担任
授業実践	□授業実践が不明 □授業実践が不明	□授業実践が不明 □授業実践が不明	1 授業実践の明確化 2 授業実践の明確化	① 授業実践(3分1日は)を徹底して実施する。 ② 授業実践(3分1日は)を徹底して実施する。 ③ 授業実践(3分1日は)を徹底して実施する。 ④ 授業実践(3分1日は)を徹底して実施する。	担任 担任 担任 担任
教材研究	□教材研究が不明 □教材研究が不明	□教材研究が不明 □教材研究が不明	1 教材研究の明確化 2 教材研究の明確化	① 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ② 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ③ 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。 ④ 教材研究(3分1日は)を徹底して実施する。	担任 担任 担任 担任

5 これまでの成果と課題、今後の取り組み

当初は、地域・保護者への一貫教育への理解が進まない実態があった。年月重ね、全体像が見えて、今は一定の理解を得られていると感じる。

6年生の中学校舎登校は、受け入れる中学校側は、生徒もかつての自分たちを映して6年生児童を見るようになり温かさを感じられるようになってきている。6年生は中1ギャップの解消、中学生は先輩としての姿勢を見せることによる自律や後輩に対する優しさや気配りを学ぶ機会となっている。また、学習規律、生活規律をまとめた小清水スタンダードは定着し、スムーズな接続ができ、子どもの戸惑いがないことも成果の一つである。

小中一貫併設校ならではの連携の仕方や利点を今後も見直ししながら、進めていきたい。

小清水町小中一貫教育 学習スタンダード

取組	第1/2学年	第3/4年	第5/6年	中学1/2/3年
学習	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
生活	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
授業	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
教材	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
実践	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
研究	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
発表	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
検討	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
公表	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。
共有	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。	○ 1つの問題をじっくりと、じっくりと解く。